

長崎学院創立70周年記念論文集刊行の辞

長崎学院は、長崎外国語学校を起源として、1945年、第二次世界大戦が終わった年に発足いたしました。長崎は、言うまでもなく広島とともに原子爆弾の悲惨を経験した町であります。長崎学院は、この原子爆弾の惨禍の中で、戦争に対する深い反省とキリスト教的人間愛の精神に基づいて創設されました。その根本は、世界の平和と人類の共存共栄のためには、若者たちが外国の言葉を学び、その背景にある各民族の豊かな歴史や文化、ものの考え方やものの感じ方を学び、国や民族を超えて相互に深く理解し合うことが何よりも大切であるという理念です。

この理念を実現するために、1950年に長崎外国語短期大学、2001年には長崎外国語大学が開学し、「キリスト教精神に基づき、外国語と国際文化に関する知識を教授研究し、国際的な視野と円満な人格の涵養を図り、もって地域並びに人類社会の福祉と発展に寄与しうる人材を育成する」という教育理念のもと、高い志をもった有為の人材を育成してきました。

長崎学院は創立70周年を記念して、2015年12月1日、長崎外国語大学ホールにおいて学院創立70周年記念式典を挙るとともに、『長崎外大論叢』第19号を記念論文集として発刊することとしました。その内容を見れば、外国語教育・言語学（日本語、韓国語、英語、タイ語）関係9本、その他（国際開発、地域研究、メディア）3本と日常の教育実践に基づくものが多くを占め、多文化多言語共生による平和の実現を希求する長崎外国語大学にふさわしいものとなっています。

ここに、この記念論文集が、長崎学院70年という歴史の節目を飾るにふさわしいものであり、今後の研究の発展に寄与貢献あらんことを祈念し、記念論文集刊行の辞とします。

2015年12月

長崎外国語大学
学長 石川 昭 仁